

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般レストラン（スタッフ）	・7月の夏祭りの際に、フェアメニューが始まるので、売上増を見込んでいる。
		通信会社（企画担当）	・これまで話もなかったような設備投資に対する問い合わせが増えてきている。
		観光名所（役員）	・来客数やレストランの予約状況から、今後は良くなる。
	やや良くなる	一般小売店〔土産〕（店員）	・今は誰と話しても、株価、土地の値上がり、一部上場企業の収益の向上等、首都圏の景気の良い話が出てくる。そういう心理的な明るい面と、それが徐々に地方都市まで波及するのではないかという期待感から、景気は上向いてくる。
		百貨店（売場主任）	・6月から本格的にクールビズ対応の動きが出てくる。特に、ジャケット、パンツ、シャツ等とそれに関する雑貨商品の動きが活発になる。
		スーパー（店長）	・全国ベースの景気回復には及ばないが、札幌地区では底ばいからやや上昇している。特に、衣料品は気温の推移に大きく左右されがちであるが、今後も2けた伸長が期待される。
		コンビニ（エリア担当）	・個人住宅の建設が若干増加傾向にあり、工事関係者による需要の増加が見込まれる。
		家電量販店（地区統括部長）	・当地では6月から地上デジタル放送が始まるため、道央圏を中心に薄型テレビとDVDレコーダーの需要が増えてくる。
		乗用車販売店（営業担当）	・1～4月の販売実績が伸びてきているため、今後についても良くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・天候次第だが、道外客の動きに底力を感じる。団体客は小規模化しているが、インターネットでの予約も活発化しており、個人客の増加が見込める。海外からの観光客も堅調な引き合いがある。また総消費単価がじわりと上昇に転じてきている。
		観光型ホテル（経営者）	・今年は愛知万博の影響がなく、また全国的に景気回復の兆しが出てきていることから、函館にもその余波が生じてくる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・6月以降の予約状況は前年を上回る水準であり、売上増の期待が強まっている。
		旅行代理店（従業員）	・国内旅行より海外旅行の申込みが増加しており、受注額は前年実績を上回って推移しているため、今後についても良くなる。
		その他レジャー施設（職員）	・夏限定チケットの発売と催事による観客増員が見込める。また子供向け新施設の投入により、夏休み期間中の子供を集客できる。
美容室（経営者）	・品質が価格に見合ったものであれば、客が関心を示す度合いが高まっており、今後、客の購買意欲が高まることが期待できる。		
変わらない	一般小売店〔酒〕（経営者）	・月初めに売上が好調な場合も、月中や月末にかけて売上が落ち込むなど、好調さに継続性がないので、まだまだ景気が回復している感じがしない。	
	百貨店（売場主任）	・金融機関の決算が過去最高額となるなど、今後、預金者への還元等が上向き兆しはあるものの、原油価格高騰の影響による生活必需品の価格上昇等のマイナス要因もあり、全体的には良し悪しが相殺され、しばらくは今の状態のままで推移する。	
	百貨店（販売促進担当）	・札幌市内の百貨店の売上高の推移をみても、横ばい又は前年割れ基調が続いており、北海道経済が上昇傾向にあるとはいえない。	
	スーパー（店長）	・原油価格の高騰で紙関連商品の値上げが発表されたが、客は敏感に反応している。今まで値上げを抑えていた企業も値上げに踏み切る可能性もあり、今後の景気回復は考えづらい。	
	スーパー（企画担当）	・消費現場での状況は気温に左右される傾向が強く、足元の動きだけでは先行きが読める状況ではないが、最近の北海道の予算削減、人件費削減等の動きから、基本的には消費者心理の大きな好転は見込めない。	
	コンビニ（エリア担当）	・依然として、客は低単価商品を志向する傾向が強い。また来客数が天候によって左右される度合いが強くなっている。	
	コンビニ（店長）	・客1人当たりの使える金額が固定化されてきており、ゆとりのない印象を受ける。	

	衣料品専門店（店長）	・燃料の値上がり等の問題に加えて、今年は冷夏という発表もあり、更に景気が冷え込む。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・原油価格の高騰が当面続く。	
	高級レストラン（スタッフ）	・7月の予約人数は前年実績に達していないが、客単価が上昇しており、現時点では前年並みの売上が見込める。また道内の観光客数は前年比80%と激減している中、道内の観光業、飲食業では網走、北見、帯広、旭川だけで明るい話題を耳にしており、それ以外の地域では景気回復の光が見えていない。	
	旅行代理店（従業員）	・良くなるよう期待したいが、期待できる要因が見当たらない。	
	タクシー運転手	・これから夏季にかけて各種のイベント等があるが、極端な景気回復は望めない。	
やや悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・原油価格の上昇にともない、食料品への消費支出が抑えられる可能性がある。また競合店との価格競争が激化するため、決して景気の回復は見込めない。	
	タクシー運転手	・規制緩和以降、札幌のタクシー台数は増え続けており、逆に利用客は減少している。特に夜のタクシー利用客が激減しており、北海道の景気は、今よりももっと悪くなっていく。	
	設計事務所（所長）	・金利上昇と建材の値上がりの傾向が強く、客の要望と予算が合わなくなってきている。このような状況が続くと、少なくとも一時的に様々なプロジェクトの動きが鈍くなるのは必至である。	
	住宅販売会社（経営者） 住宅販売会社（従業員）	・原油高等の影響で、経費がかさんでくるので、徐々に景気が悪くなる。 ・所得の低下が景気低迷の大きな要因となっている状況から、今後についても現状維持もしくはそれを下回って推移する。	
悪くなる	スナック（経営者）	・5月になってからの暇な状態は、例年と比べて異常なものがあり、今後の見通しについても不安がある。	
企業動向関連	良くなる	-	
	やや良くなる	家具製造業（経営者） 広告代理店（従業員） その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	・企業の業績回復に伴い法人需要の増大が見込める。 ・6月1日から函館～ソウル便が就航するため、観光のトップシーズンに向けて、さまざまな相乗効果が期待できる。 ・現在の受注量、積算量から、消耗資材及び生産財需要は7～8月にピークを迎える。ただし下期の需要については不透明感をぬぐえない。
	変わらない	食料品製造業（団体役員） 金属製品製造業（経営者）	・企業の設備投資や運転資金に対する金融機関の対応が厳しくなっており、企業倒産や廃業が増加している。 ・原油高騰と原材料の更なる値上げが見込まれるが、値上げ分を製品価格に転嫁できないという環境にあり、今後についても良くなるとは考えづらい。
		金融業（企画担当） その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・住宅投資は、札幌市の建築物高さ規制が導入されたことにより、高層マンションの着工が落ち込む。またガソリンなどの石油製品の価格が上昇して、企業収益や家計を圧迫しているため、道内景気は停滞が続く。観光は最盛期を迎え、また知床効果もあり、活況が期待できる。個人消費は、雇用情勢がわずかに好転しているが、所得情勢は官民ともに厳しく弱い動きが続く。 ・マンション建設などの民間設備投資が多少増加しているが、一時的なものであり、今後についても変わらないままである。
やや悪くなる	輸送業（支店長） 輸送業（営業担当）	・北海道の物流業界においては、燃料費の上昇を価格に転嫁できない状況であり、本格的に経営の重しとなってくる。 ・燃料油の高騰を運賃に転嫁できないほど貨物量が少なく、当分、船社と荷主の板ばさみで四苦八苦の状態が続く。	
	悪くなる	輸送業（経営者）	・燃料の高騰が業績に相当大きなダメージを与える。
雇用関連	良くなる	-	
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者） 学校〔大学〕（就職担当）	・アルバイトや派遣が中心だった求人ニーズが、正社員にまで波及している。 ・既に複数の企業から内定を得ている学生もいるなど、企業の採用活動が活発であり、今後も順調に内定者が増える。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人広告受付件数が横ばい状況にあり、地元企業の求人も一段落したため、前年と同程度の水準で推移する。

	新聞社 [求人広告] (担当者)	・大手電器メーカーの部品工場と大手食品メーカーのチーズ工場の新設に伴う雇用増が期待されるが、それ以外では明るい材料が乏しく、全体としては今後も変わらない。
	職業安定所 (職員)	・有効求人倍率をみると改善傾向が続いているが、有効求人を見ると、請負求人、期間雇用、契約社員等の正社員以外の求人が増加していることに加えて、パート求人の割合が33.6%と依然として高い割合で推移している。今後についても、求職者の約9割が求めている常用就職の雇用環境は厳しい状況が続く。
	職業安定所 (職員)	・管内で急激に回復する要因等が見当たらないことから、横ばいで推移する。
やや悪くなる	職業安定所 (職員)	・有効求人倍率が前年実績を10か月連続して下回っている。求人の大部分は欠員補充であり、増員による求人がみられないことから、今後についてはやや悪くなる。
悪くなる		